支部だより

関西支部「第8回夏季大学」の報告

昭和61年度夏季大学は大阪管区気象台，大阪府・京都府・奈良県・兵庫県及び大阪市の各教育委員会の後援で，7月28日から3日間大阪府立労働センターで開講され，関係各位のご協力により首尾よく終了することができました．今回のテーマは最近社会の関心が高まっている気候について，古気候から21世紀の予測までを含んだ“気候とその変化”を取り上げました．

〔プログラム〕

7月28日（月）

開講の挨拶　関西支部長　廣田　勇

最近の気候変動と今後の見通し

京都大学教授　山元龍三郎

大阪平野の変遷　大阪市立大学教授　市原　実

7月29日（火）

気候は何故変わるのだろうか

京都大学助教授　岩嶋樹也

映画　1．異常気象 No. 3

2．大地はゆれる

天気図から見た異常天候

大阪管区気象台予報官　西本洋相

7月30日（水）

古気候復元　三重大学教授　水越允治

気象台見学

参加者は64名で小学校から大学までの教職員26名のほか，学生，公務員，団体職員などさまざまでした．真夏の炎天下にもかかわらず欠席者はごくわずかで，終始熱心に聴講されていたのが印象的でした．最終日の午後気象台関係者のご協力を得て大阪管区気象台の見学を行いました．45名が参加し窪田将技術部長から総括説明をして頂いたあと，予報，観測，通信各課の施設に直接触れて頂きました．見学後の質疑応答では受講生から活発な質問が相次ぎ予定時間をオーバーする程でした．

講義終了後のアンケートによれば各講義ともおおむね理解しやすかったと好評で，今後の開催についても開催した方がよいとする意見が圧倒的でした．希望するテーマとしては天気予報（24名），都市気候・中小規模じょう乱・大気汚染（各17名），気象教育・気象衛星（各15名），気象災害（14名），農業気象（13名）等〔以上複数回答〕に多くの希望が寄せられました．

なお今回の開講に当たりお世話になった多くの方々に深甚の謝意を表します．

北海道支部「第4回夏季大学」の報告

日本気象学会北海道支部・札幌市青少年科学館共催の夏季大学は今年で4回目を迎え，7月31日～8月1日の2日間，札幌市青少年科学館で開催した．

今回のテーマは“冬の気象”で，講師に小林禎作北大教授ほか，多彩な顔触れによる大変興味深いものであった．一方募集人員は会場の都合で40名であったが，なんとか便宜をはかり，1日目は51名，2日目は46名の受講生を収容することができた．このため質問が相ついだこともあり熱気ムンムン，充実した両日であった．受講生の構成は次の通りである．

小学校の先生	14%	学生	10%
中学校の先生	25%	一般市民	8%
高校の先生	43%		

この夏季大学では毎回，受講者を対象にアンケートを実施しているが，今回のアンケート結果では，各講義ともだいたい理解でき，受講して大変有益だったとする回答が多く全般に好評であった．また来年も是非開催してほしいとの意見も多かった．

〔題目と講師は下記の通りである．〕

1．雪はなぜ六角か

北海道大学低温科学研究所　小林　禎作

2．「ひまわり」から見た北海道の冬の天気

札幌管区気象台予報課　木村　隆昭

3．北海道の冬と生活

北海道大学低温科学研究所　秋田谷英次

4．氷河のふるまい―温暖地域から極地まで―

北海道大学低温科学研究所　成瀬　廉二